



すみれぐみだより

2021年 1月 第5号

あけましておめでとうございます

子ども達の元気な挨拶で新年がスタートしました。静かだった園内も子ども達の声で賑やかです。寒さが増す時期ではありますが、「冬」を感じながら戸外で元気に体を動かし遊びたいと思います。

たくさんの経験をしながら、来年度に繋がるような保育を行い、「今日も楽しかった」と感じられる日々を過ごして欲しいと思います。



とべるよ!!



10月に入りなわとびの練習を始めました。今年は、短縄に挑戦です。保育士に長さを調節してもらっただけでウキウキの子ども達。園庭に出ると「やったー」と、自分のなわとびに大喜びでした。初めての練習の日、保育士の跳ぶ姿を真剣に見入り、自分が跳ぶ姿をイメージしているようでした。実際にやってみると、イメージするようには跳べず難しさを感じている様子。その中でも、ぴょんぴょんとリズムカルに跳べる子が何人かいて「すごーい」と目を輝かせて見ていました。自粛期間中やお休みの日にお家で練習していたようです。上手に跳ぶ友達姿が刺激となり、「跳べるようになりたい」の気持ちに繋がったようです。

戸外に出るとなわとびの練習に精を出し、友達と励まし合い、保育士に数えてもらったりしながら、楽しんでいます。1回ずつ跳んでいた子ども達も、今では何十回と跳べるようになり、後ろとびやあやとびの練習をしている子も増えてきました。

練習を通して、がんばりが自分の力になり、できる事が増える楽しさを味わいながら、自信に繋がっている子ども達です。

☆ともだちがこまっていたらたすけてあげよう☆

月刊誌に載っていたこの言葉をクラスの合言葉にしました。「ともだちと」よりも一人遊びを楽しんでいた子ども達も、今では誘い合って遊ぶ姿が増えました。その中で、困っている友達がいたら手を差し伸ばしてあげられるような優しさをもって欲しいと思います。なわとびの練習後、上手く縛れずにいる友達に縛り方を教えてあげたり、やってあげたり、上着のファスナーを閉めてあげたり、制作で小さな先生になって手伝ってあげたりしています。

【自分を生きる4歳児】いろいろな事が見え、わかり、感じる事ができるようになる反面、自分を強く意識し、葛藤したり揺れたりする時期でもあります。友達との関わりの中で、楽しい事ばかりでなく、小さな争い事や揉め事を経験し、ぶつかったり…つながったり…しながら、自己主張の仕方や友達の受け入れ方を学び身に付けていきます。体だけではなく、様々な活動を通して仲間意識を高め合い、助け合い、心の成長を育てている子ども達。いつまでも「ともだち」の存在を大切にしたい、仲間としていつまでも仲良しでいて欲しいと願っています。



「きょうのれんらくな〜に?」

簡単な連絡事項など、子ども達を通してお知らせしていきます。「見て、聞いて、考えて」ができるようになってきている子ども達。保育士からの話をお家でどんな風に言葉で伝えようか…と考える力を養っています。子ども達の言葉で不明な事は遠慮なく声をかけてください。今の時期に大切な成長をご家庭と共に育てていきたいと思ひます。